

# 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0370300196		
法人名	社会福法人三陸福祉会		
事業所名	認知症高齢者グループホーム さんりく		
所在地	〒022-0101 岩手県大船渡市三陸町越喜来字所通91		
自己評価作成日	令和6年10月1日	評価結果市町村受理日	令和6年12月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou</a>
----------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は、小規模多機能型施設と併設しており、同地区の方々や昔からの知り合いの方も多く利用されております。日頃から一緒にお茶を飲んだり、会話をしたり行き来し交流もあり、中でも(夏祭りや敬老会、ドライブ)と合同で開催し楽しませております。また、医療面では主治医に常に連絡を取り合いながら健康管理に努め、利用者様やご家族様も安心して過ごされています。職員は、事業所の基本理念「地域と共に、その人らしく」を掲げ、日々の生活が「その人らしく」生活が送れるように職員同士で話し合い、また、担当職員は個別ケア計画書を作成し評価しながら介護に努めております。コロナ感染症も5類となり、外出する機会も多くなってきており、引き続き感染状況を見ながら対策、予防に努め、地域の方々との交流する機会を設け、日々、楽しく、自分らしく生活を送れるように支援していきたいと思っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、東日本大震災で被災し、現在は、本体施設1階に小規模多機能ホームと併設して運営されている。コロナ禍により地域との交流機会が縮小されているものの、四季に応じた花見や紅葉狩り、駅前フリーマーケット、大型客船の見学など、利用者の思いに寄り添い柔軟に外出の機会を設けている。日頃から主治医と連携して健康管理に努め、看取りを希望される家族にも医師からの細やかな説明を行い、安心して最期を迎えられる体制ができています。職員は、事業所の基本理念「地域と共に、その人らしく」を掲げ、「その人らしく」「あたりまえの暮らしを」を送れる支援に努めている。家族が遠方に居住している方が多く、日々の様子を一行日誌として綴ったものを毎月家族に送ることで、信頼にもつながっている。東日本大震災の際は、地域の他の事業所で受け入れをいただいたこともあり、地域への恩返しを常に意識している。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和6年10月28日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

事業所名 : 認知症高齢者グループホーム さんりく

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	今年度も職員全員で掲げた理念について「どうであったか？」を振り返りながら考え決定した。毎月の会議の中で、掲げた理念や目標が達成・向上しているかを確認し改善しながら日々取り組んでいる。	法人の理念のもとに基本方針「地域と共に、その人らしく」を設定し、一人一人のペースに合わせた「あたりまえの暮らし」を提供できるよう努めている。毎年度の事業計画作成に併せ、併設の小規模多機能ホームと合同の会議で理念、基本方針等を確認している。日頃から基本方針を意識した支援が提供できるよう、管理者が適時に助言し、介護サービスに反映させている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度は、サクソ演奏(慰問)やドライブや地域で行われた郷土芸能発表会などに出掛ける機会も多くあり、また、夏祭りでは併設されている多機能ホーム利用者と合同で開催し職員と利用者と一緒に楽しい時間がもてるように支援している。	個人ボランティアによるサクソ奏者の演奏訪問があり、また、訪問調査日には、地域のこども園からハロウィンに合わせた訪問行事が予定されている。地区公民館で開催された郷土芸能発表会の見学に出向いたり、地域の小学校運動会の見学や駅前でのフリーマーケット等に出掛けるようにしている。今年度は、運営推進委員を招いた敬老会を予定していたが、コロナ禍のため見送りとした。施設の夏祭りが、地域との交流の場でもあり、再開の希望がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	定期的に地域の方々に広報を回覧し利用者の日々の生活の様子や地域の方々に役立つ情報等を掲載している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は2ヶ月/1回、運営推進会議を開催できている。事業計画ははじめ取り組み内容や現状報告を行いながら、さまざまなご意見や要望等を頂きお答えしながらサービスに活かしている。	コロナ禍を経て、市の指導で今年度は、2か月ごとに開催している。委員である駐在所員から不審者対応の際の助言、消防署員から避難訓練での講評、地区代表委員から地域との交流の場でもある施設夏祭りの再開を望む意見など、活発な意見交換がなされている。外部評価結果についても報告している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議では、市の担当者の方に参加して頂いています。事業所の状況や取り組みなどを伝えながら意見交換を行いサービスの向上に繋げていけるように努めている。	運営推進会議委員として、市担当課長、地域包括支援センターの担当者出席し、感染症や福祉避難所の確認などの情報交換を行なっている。市からの広報等の情報、通知書類等は法人事務局から配布され、防災情報は各世帯にも設置の防災ラジオから入手している。市主催の医療ワーキンググループには、ケアマネが毎月参加している。	

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 認知症高齢者グループホーム さんりく

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所内で年に2回「身体拘束について」の研修を予定している。職員は身体拘束について理解しており、利用者様と日々生活する中で、言葉の拘束はもちろん身体拘束もしないケアに取り組んでいる。	事業所と併設の小規模多機能ホームで担当者を配置して委員会を定期開催し、研修も行っている。身体拘束の事例はなく、離床確認、転倒防止として、3名の利用者がベッドマットにナースコールを使用している。夜間のみ玄関を施錠している。	身体拘束委員会の話し合い結果を議事録として整備し、その趣旨を職員間で共有、徹底されるよう期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内で年に2回「高齢者虐待防止」の研修を予定している。職員は「高齢者虐待」について理解していると思われるが、研修を通して「利用者の虐待になっていないか？」注意を払いながら防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている利用者はいないが、まだまだ理解をされている職員は少ない。今後も研修を通して知識や制度を理解できるように取り組んでいく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては、事前にご家族立会いにて十分に説明し理解、納得して頂けるように努めている。また、介護改訂等には、文書を送付した上で質問等に応じ十分に理解をして頂けるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会及び電話連絡の際に、利用者の状態報告に加え要望や希望を聞いている。利用者については、日々の会話の中で意向や要望を聞き取りながら支援している。	面会や電話連絡、ケアプラン見直しの際に、家族の要望等を伺っている。「一行日誌」として毎日の生活の様子を家族に送っている。遠方に居住する家族からの実家の敷地の草刈りの相談にも対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常的に職員とのコミュニケーションを図りながら意見や提案を聞き入れている。また、毎月開催される会議の中でも意見を出し合いながら、運営に反映している。	大船渡港に寄港する客船飛鳥の見学など、利用者が希望する外出や夕方の入浴に対応できる職員の配置の提案には、実現出来るよう柔軟に対応している。職員が希望する資格取得や研修受講等は、費用補助を含めて支援している。また、毎年度、職員は個人目標を設定し、半年ごとの自己評価と上司評価により目標の進捗を確認して目標達成に取り組んでいる。	

事業所名 : 認知症高齢者グループホーム さんりく

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務表については、職員のライフスタイルに合わせ、本人の希望を取り入れながら作成している。また、やりがいや向上心を持って働けるように職員個々に役割を持って頂き、上司は適切にアドバイスのできるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人では、職員の資格取得について、費用等の助成や資格手当の創設、取得方法等の情報提供を行っている。また、事業所では「PDCA」の取り組みを継続している。仕事の中でも、問題に対し自ら考え、行動できるようにアドバイスを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修に参加する機会が無く、同業者との交流を持つ機会がない。法人内部での研修は設けられているが参加されていない。外部研修については、今後、情報を取り入れながら参加する機会を設けていきたい。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを導入する前には、ご家族より本人に対しての聞き取りを行った上で職員同士で共有している。サービスを導入した段階では、常に目を配り、気配りをしながら本人の不安な事に耳を傾け、本人の目線に合わせてコミュニケーションを図りながら信頼関係が築けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談時に要望や希望を伺いながら、ご家族様とサービス内容を確認し、安心してサービスが受けられ話しやすい関係となるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族の話に真摯に向き合い、今、必要な支援を見極め、各施設や事業所等と連絡を取り合いながら対応している。		

事業所名 : 認知症高齢者グループホーム さんりく

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で本人とコミュニケーションを図りながら「今の思い、出来る事。したい事」を見つけ出し、生活の中で共に生活している雰囲気を大切に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の日々の暮らしや状態など「一行日誌」として毎月ご家族へ郵送している。また、面会時には職員も一緒に付き添い、ご家族との会話が楽しく長い時間で会話が出来ようサポートしながら絆が深まるように支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みのスーパーへ買い物に出かけ、顔なじみの方と会える機会を設け、また、定期的に理容・美容室へ行くなど関係が切れないようにしている。	近所に家族がいる方は面会に孫、ひ孫が面会に訪れ、稀に友人が来られる方もいる。運営推進会議委員の公民館長から地域行事の情報提供を頂き、フリーマーケット見学、町文化祭への作品出展やその見学など、これまでの関係を大切にしている。2名の利用者が家族付き添いで行きつけの理美容所に行っているほか、地域の理容業者が出張し、馴染みの人となっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者個々の性格や互いの共通性を把握し、座席の工夫を行ったり、共同で作業を行ったり、余暇活動を行いながら互いに支えながらより良い関係性がもてるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了については、お亡くなりになるケースが殆どである。ご家族との関係性は、終了後にも困った事があればいつでも相談に応じることをお伝えしている。		

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で「本人はどうしたいのか」という事を考えながら、お声掛けなど心掛けている。意思表示の困難な方に対しては、表情や行動などから今の思いを知るように関わりをもち、本人の視点に立って職員同士で意見を出し合いながら努めている。	言葉での意思表示が難しい方には、日常の仕草の変化などから汲み取り、外出の希望等、一人一人の思いに対応するようにしている。慣れ親しんだ地元の言葉、方言でコミュニケーションをとっている。利用者個々に得意としていることを尊重し、モップ掛け、茶わん洗い、洗濯物畳みや、おはぎ、ごますり等の料理の手伝いをしてくれる方もいる。また、紙芝居の読み聞かせを披露される方もいる。	
----	-----	--	---	--	--

事業所名 : 認知症高齢者グループホーム さんりく

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族からの情報や本人との会話の中から、これまでの暮らし方・生活環境などを把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子や状態などは、介護日誌・看護日誌・申し送りノートや申し送りで共有し、現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員は個々に担当を持ち、担当利用者の個別のケア計画を作成し定期的に評価を行っている。日々の様子や気づいた事などはケース記録や申し送りノートへ記入し情報を共有しながら行い、職員間で検討しケア内容の継続や変更等を行っている。ケア計画書・評価表については、ご家族へ郵送し確認して頂いている。	長期計画1年、短期計画6ヶ月を基本としたケアプランの他、事業所独自に一人一人の食事や精神面、環境等について個別計画として3か月に1回作成している。日々の利用者の変化や職員が気づいたことはその都度、申し送りノート等を使って共有している。モニタリングはケアマネジャーが担当し、毎月のケアカンファレンスで全員で確認している。医療面でのケア内容の変更がある場合には、医師から直接家族に説明する場合もある。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活から気づいた事や重要事項などはケース記録や申し送りノートに記入し職員間で情報を共有している。計画の見直しは情報を活用し、職員間で検討しながら実践している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族の希望により、一時帰宅や外出等の対応はできている。また、ご本人やご家族の状況に応じ、買い物等の代行や受診介助など必要に応じ柔軟に支援できるように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事や買い物、ドライブなど本人の意向のもとに安全で豊かな暮らしを楽しめるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は、ご家族の希望を確認し決定している。殆どのご家族は遠方にいる為、定期受診については管理者または職員が対応している。受診の際には、本人の健康記録等を持参し医師に提出。本人状態の報告を行い指示を頂いている。また、職員が不安なことなども気軽に相談しアドバイス等の頂いている。受診結果については、ご家族へ報告し安心して頂いている。利用者の急変時や受診ができない場合は、訪問診療をして頂いている。	ほとんどの利用者が入居前からのかかりつけ医を受診し、3名の方は家族の希望で入居後に変更している。通院は、専ら管理者又は職員が付き添って受診し、受診後は家族に報告している。初診の際には、家族にも付添いをお願いし、医師との顔合わせも行っている。通院が難しい1名の方は、訪問診療を利用している。家族が希望する予防接種は法人嘱託医師が対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在、看護師が勤務していない状態である。利用者の体調については、管理者はじめ職員全員が日々観察し注意をしながら支援している。変化があった場合は、直ちに主治医に連絡、相談を行いながら適切に対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院される場合は、本人の情報を提供し、ご家族や医療機関と情報交換を行いながら安心して治療ができるように努めている。今のところ入院された利用者様はいない。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重症化した場合や終末期のあり方について、契約時に確認しているが、その時の状態変化に応じて、その都度ご家族へ連絡し再確認を行っている。その際は、管理者はご家族と共に主治医から十分な説明を受けている。	重度化した際の指針等は作成していない。家族が看取りを希望した場合には、訪問診療の医師から再度意向を確認したうえで対応している。看取り期には、毎日医師が来所しケアの内容や見通しなどについて家族、職員に詳細に説明しており、家族の信頼に繋がっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成され、いつでも確認できるようになっている。現在は看護師がいない状態な為、訓練は行われていない。		

事業所名 : 認知症高齢者グループホーム さんりく

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、総合訓練や土砂災害避難訓練を実施している。総合訓練では、消防署立会いのもと実施されご意見を頂きながら見直している。また、運営推進会議推進委員には分署長も参加して頂きながら協力体制を築いている。	本体施設に付帯した事業所であるが、所在位置がハザードマップで土砂災害警戒区域に入っているため、総合防災訓練のほか、土砂災害想定 の避難訓練も実施している。避難は、本体施設への垂直避難としている。コロナ禍前は、運営推進会議開催日に併せて訓練を行い、地域住民の参加もいただいていたが、現在は地域には声掛けしていない。法人全体で食糧3日分のほか、自家発電機、反射式ストーブを備え、事業所は独自で米20キロ、缶詰、カセットコンロを備蓄している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの性格やこれまでの生活環境も踏まえ、言葉や口調に気をつけ、その人にあつたお声かけを行っている。また、排泄介助・入浴時の対応ではプライバシーや自尊心を損なわないように本人の立場に立って対応するように取り組んでいる。	入浴、排泄時の異性介助はあるが、希望に添って職員を変えるなど対応している。失禁した際には、さり気ない声掛けをし、周囲にも配慮しながらトイレ誘導し、清拭、更衣をしている。言葉遣いは、方言など親しみを込めながらも、利用者の尊厳に配慮している。個人のケア記録等の情報は、ファイルやパソコン等で適切に管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃のコミュニケーションの中で希望を汲みとれるような働きかけや自己決定できるようなお声かけや雰囲気作りを心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活リズムを維持するために、1日の流れは大まかに決めてはいるが、食事の時間や入浴の時間や散歩など一人ひとりのペースや希望に合わせ柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時には、職員と本人とで着替え(洋服)を選んだり行事の際は、普段とは違う服装をしたりとその時々に応じて「おしゃれ」を楽しんでいる。		

事業所名 : 認知症高齢者グループホーム さんりく

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事については、片寄りが無いように職員がお互いに献立表を確認しながら調理している。また、食べたい物や個々に好きな食べ物を聞きながら提供したり、旬の物はその時に提供している。また、食事形態も個々の状態に合わせている。片付け(食器洗い)なども利用者様が自ら率先して手伝って頂いている。	献立は職員が作り、1か月に1回法人の栄養士からアドバイスももらっている。調理は職員が行うが、だんご作りなど利用者の手伝いもある。食材の購入は職員で対応しているが、近所のスーパーなどで買い出しには利用者が同行することもある。一人一人に合わせて医師の指示でミキサー食、とろみ剤を使用するなどの対応を行なっている。行事には手作りの折詰、お寿司、煮しめ、刺身、鍋など、季節や節句の時期に合わせた食事のほか、カマもち、なべやき等の郷土食、サンマ、ホタテ等、家族から魚介類の差入れもある。以前利用していた利用者家族から、定期的のだんごの差入れもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分摂取量のチェック表を確認し、一人ひとりの状態を把握に努めている。栄養バランスについては、月に1度、管理栄養士に献立表を確認して頂きアドバイスを頂いている。随時、その時の状態に合わせて工夫しながら提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの声掛け・誘導、介助を行っている。就床前にはポリデントを使用し消毒を行っている。うがいのできない方は、口腔シートなどを使用し介助にて実施している。また、虫歯や口腔内異常が見られた際は、歯科受診や歯科訪問診療にて対応している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を見ながら、1日の排泄パターンを把握し、声掛けやトイレ誘導、介助を行っており、ほとんどの方はリハビリパンツから、布パンツへ変更しパットのみでの対応になっている。また、自立されている方には、見守りまたはさりげなく声掛けを行っている。	排泄チェック表で確認しながら、適時に声掛け、誘導を行なっている。4名が自立しオムツ使用が1名、3名がリハビリパンツにパットを使用している。8名ともトイレを使用し、うち2名が夜間にポータブルトイレを使用している。入居後の適切な声掛け誘導により、リハビリパンツ使用の方が布パンツに改善した方もあり、リハビリパンツ等の排泄用品購入費の軽減にも繋がっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックで状態を確認しながら、水分補給や乳製品、食物繊維等を提供し出来るだけ自然排便ができるように努めている。状態によっては、主治医に相談し内服薬を服用し排便コントロールも行っている。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 認知症高齢者グループホーム さんりく

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	1週間に6日は入浴の日を設けている。個室・機械浴を使用しながら実施しているが、その日の健康状態であったり本人が気分がのらない日などは入浴日を変更するなどして対応している。入浴の際は、職員はコミュニケーションを図りながら、ゆっくりと心地よく満足できるように入浴を支援している。	1人週2回を基本としているが、要望があれば対応し3、4回の利用者もいる。浴槽を跨げない方は、多機能ホームの機械浴を使い、複数の職員で対応している。入浴剤を使用し、季節によって菖蒲湯や柚子湯も提供し、楽しんでいただいている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動の場を多く提供し、夜間安眠ができるように努めている。また、個々のリズムに合わせて就床時間前には好きなテレビを見るなどしながら過ごして頂き、安眠ができるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの病歴、内服薬の用法、副作用について理解し間違わないように、服用の際は職員2名で声を掛け合いながら服薬介助している。症状の変化を観察し必要時には主治医に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	塗り絵やレク・歌・家事の手伝いなど出来る事を行って頂き、毎日の生活が楽しく過ごせるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人が外へ行きたい場合など、職員が付き添い園外を散歩したり、買い物希望された場合は、職員と一緒に掛かけたりとその都度、本人の希望に添えるように支援している。また、お盆やお正月などご家族より希望があった際は対応している。	天気の良い日は、事業所周辺を散歩している。毎月巡回する移動図書館を利用する方もいる。花見、客船飛鳥の見学に出かけ、温泉の足湯、紅葉狩りは11月に予定している。毎年地区文化祭に作品を出展、見学に出向いている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族からの預かり金は管理者が管理している。排泄用品の購入や受診料、理容・美容・買い物の際に使用し、毎月「金銭出納簿」を記入しご家族へ郵送している。自己管理されている方はいない。		

事業所名 : 認知症高齢者グループホーム さんりく

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでもご家族と自由に連絡が取れるように希望に応じ支援している。また、ご家族への年賀状などは職員が手伝いながら行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日差しや照明の調整、室温や温度調整、換気、消毒等を行い清潔で心地よく過ごせるように努めている。また、職員と利用者様が一緒に作りながら装飾し、季節感を取り入れながら快適な環境作りを心掛けている。	エアコン、床暖房により空調管理している。ロビーには、食事用テーブル、ソファ、テレビが置かれ、利用者は、それぞれの場所でくつろいでいる。壁には活動の写真、利用者の作品が貼付されている。季節ごとに、切絵、ちぎり絵の作品を飾り、七夕、ひな祭り、みずきダンゴなど、季節を感じられるよう装飾を工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂ホールやソファや居室など利用者個々にその日の状態や思いに合わせて、自由に過ごして頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前の説明にて、本人の馴染の物など持ち込めることを説明している。また、本人の希望により居室を畳のお部屋にするなど対応している。ご家族からの贈り物などは居室に飾るなど心地よく過ごせるよう努めている。	室内は、和風の照明で、柔らかな光となつている。ベッド、箆笥、洗面台が設置され、ベッドは利用者の意向に沿った配置となっている。畳を希望される方もいる。家具や家族の写真など、個人の希望の物品を持ち込んでいる。居室は職員が清掃している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設全体は安全面に配慮された作りになっている。利用者の中には自分の居室が分からない、トイレを迷う方もあり、居室・トイレの入口へ名前や張り紙をする事で迷うことなくスムーズに入ることができている。危険箇所を職員は把握し安全に生活ができるよう支援している。		